

水源禪師法話集 20

(2013年2月17日 東京法話会)

2014年10月10日

一乗会



目次

水源禅師法話.....	1
肉食について.....	1
パオ僧院に対する誤解.....	1
テーラワーダ、大乘、密教.....	4
水源禅師の教え方.....	6
禅の問題点.....	8
因縁について.....	9
宇宙の仕組みと仏罰.....	11
ボロボドゥール、火天、三十七仏.....	12
ボロボドゥールでの護摩行.....	14
正式な日本密教.....	17
本来の修行と離れて.....	19
インターセプトカルマ、法に遇うこと.....	20
不動明王の護摩焚き.....	21
大涅槃界.....	22

水源禪師法話

肉食について

いつも問題が発生するのだけれど、肉食を本当に禁じたのは今から 1500 年くらい前の中国の国王が決めたのですね。「お坊さんは肉食を断つように」と。ただし「少林寺のお坊さんはロバの肉を食べてもよい」という歴史的事実を知らないでしょ？「肉食を断つように」というのはデーバダッタ尊者が言ったわけです。彼は地獄に堕ちていきました。デーバダッタの十戒といって、非常に納得いくような、なぜかといったら、今のように「屠殺をしないように！」「肉を食べるのは善くない！」と。

そのとき、お釈迦様は食べる物については、一つも言わなかった。なぜかといえば、シベリアの -50°C のところ、バイカル湖の横にチベット仏教があります。そこは野菜がないです。イヌイットもそうです。北方インディアンは「お米」が食べられないです。「パン」も食べられないです。長年そういう習慣で生きているから、本当の野生のものか、肉食しか食べられない。結局、仏法は全宇宙的なものであり、この地球上の一部のための仏法ではない。科学的にもブラックホールを理論上、発見して、宇宙科学的にも発見したホーキンス博士の証言によれば「この大宇宙には少なくとも 2 億の地球みたいな文明があるはずだ！」と。ということは、2 億といえば、仏法でいう「全宇宙に生命体があります」という、科学的にも「そうになっています」ということですね。私たちの DNA は酸素、動物性・植物性プロテインで生きているけれども、地下 5 km あたりの生命体はヒ素とか毒を食べて生きている。全く DNA が全然違う生命体。でも、行動体はバクテリアで同じ行動するわけ。これが心・ナーマのことで、心はどんな生命体にでも安住します。『金剛般若波羅蜜経』に、お釈迦様はありとあらゆる生命体のことを説法しています。

仏法は科学をも統一する最高位の法であるから、それも説明しないといけないわけです。そうでなければ、狂信的に走ってしまいます。カナダで「野菜だけで生きている」と、「肉を食べるのは屠殺だ！」と、14 年続けていたら頭も体もおかしくなった。私が一緒に旅して、「あなた肉を食べなさい」と。「魚を食べなさい」と。わざわざ買ってきて食べさせました。この方の体が震えて、行動も奇声を出したり、とても不自然でいました。私がこの方に魚のプロテインを与えてからスーッと消えました。デーバダッタの十戒といって非常に有名です。デーバダッタは大変な仏法に反する方ということ。それを今、取り入れようということだから、もう少し深く生命体を見られた方がよいのではないのでしょうか。

パオ僧院に対する誤解

特に、今回はパオセヤドーとも対談しました。パオ 1600 人を司るウ・レヴァタ長老ともダンマ（法、真理）のことで深く談義しましたが、今、ヴィパッサナー（観）で最大の問題

はどこにあるかといったら、もうテクニックではないのですね。「ダンマをいかにつかむか」というところに入って。ヴィパッサナーをやれば、頭だけが大きくなってしまって止・禅定（サマタ）が潰れるわけです。サマタというのは、チッタヌパッサナー（心随観）の達磨大師の「無我の境地」にいかにして入っていくかということで、それも一つの入り口なのです。ウ・レヴァタ長老に「三つの言葉の回答をしてください！」と言ったわけですね、「そうしたら、私はこのパオ僧院に残りましょう！」と。その回答が、そのときにできなかったのですね。そのことは（直接パオで教えられている非公開の経典の中の）最終ページの最後の5段に書いていることで、彼が教えている教科のことなのです。この教科は日本には伝わっていないはずですよ。

クムダセヤドーも、この教本は持っていないと思う。なぜかといったら、今、聞いたら、パオ総本山（パオ森林僧院モーラマイン本部）のやり方とはまた違う方法でクムダさんが教えているということが今回、明快に分かってね。分院で一応、教科が終わった方は、必ずパオ僧院（モーラマイン本部）に行って試験を受けなければいけないのです。それで初めて認定されます。「分院で通過した」ということは「分院通過」ということで、正式の段階には入ってない。ただ、そのことを日本の方は知らないのです。

【参加者】

日本の方は本院で通過されたのですか？

【水源師】

日本の方の名前は全然、挙がっていませんでした、残念ながら。

だから、日本の現状はパオ僧院では全然、分かっていないのですね、何が起きているか。日本にとっても悪いし、パオにとっても非常に悪い条件が発生したということで、修正ということはあっちで見守り始めていますね。

韓国の状態もそうです。では「なぜ韓国の比丘・比丘尼が私に報告しなかったのか？」と。それは比丘・比丘尼 20 年、30 年やっても「この内容は分からないから報告できないでしょ！」と。「ああそうだったのか！」と。体験したと言っても、行を通過しただけではダメなのです。最終的には 20 人の全部「空」を分かった行者に質問されます。そこで明快に回答して、この人は「まず第一段階のパオを通過した」ということになる。まだ、その上にはサカタガミ（一來果）、アナガミ（不還果）、アラハト（阿羅漢）の階段あるから、そういう小さい問題は別問題で、本当の行者は外に出たくないのですよ。ひっそりと一般の村でこつこつと教えながら熱心に修行する方向で、人も助け自分も進化しようという人が多かったですね。

特に、私が知っているすごい行者が、ティーチャーズポジションを与えられたのですが、「私どうしてもいやなのです！私を助けてください」と。どうしても納得いかなかったわけ。彼はいまだに人に教えない。もし間違ったことを教えた場合には大変なことになる、次の世界で。行が全く遮断される。体験しているから！観えているから！そのことを私は注意しているわけです。

一番いいのは行を通過したと思ったら、試験を受けにいけばいいのです。そこで完全に通

過したと思っても、またカーヤヌパサナー（身随観）ヴェーダナヌパサナー（受随観）、禅法（心随観）の法でも最高位の方が韓国にはおりますからね。韓国第一道場といわれる、そこでは皆、僧が3年坐りっぱなしです。そう簡単なものではない。10年やってもなかなか通過しない。そういうところの和尚さんから認可されたりね。そういう本物の法をどこでも認められるものを持ってやれば間違いない。だから結局「因縁を造る」と。因縁は待っていて、ぼたもちが落ちてくればいいんだけど、犬もあるけば棒に当たるみたいに、歩けば因縁に当たる機会が多いですね！だから、修行僧は旅を続けて続けて、因縁を造るわけなのです。

マレーシアでも14年、パオセヤドーの側近みたいな人でも、なかなかうまくいかないわけなのです。「どうしたら進化できるのか」と。私が「南伝は丹田の力が弱いから、腹式呼吸で力づけなさい」と。でも「これパオセヤドーに知れたら怒られるのではないのでしょうか」と（笑）。「いや怒られません」と。「腹で呼吸して力ついたときに、意識をアナパナ（入出息念）に持っていけば、ニミッタ（丹光、禅相）が持続しますから」、「なるほど、そうします」と。法をしっかり分かってない場合は、生涯を賭けた僧でもなかなか理解しにくいわけです。特に、日本の場合はミャンマーから遠くに離れているから、ミャンマーの方でも一体、何が起きているか分からないし、日本の方々も言われたらそのとおりに、言われたとおりに理解するしかないわけです。

私がパオのミャンマー第一道場の1600人の比丘・比丘尼がおる僧院で、筆頭（ウ・レヴァタ長老）に対して私が一騎打ちかけたわけも、ここにあるわけです。そして、一発でパーンと一本取ったものだから、それで禅のことが非常に注目され始めたわけです。「禅というのは、これだけの力があるのか」と。昨日も説明したように、質問内容はヴィパッサナーの最終過程の最後のページにあるわけなのだけれど、そこが解析できなかったわけなのです。彼（ウ・レヴァタ長老）も世界的に有名な方で、全世界から招待されるけれど、出ていける時間も無いし、責任もあるしね。パオ全部を引き受けている人間だから。私はまだ11カ月で全く風来坊みたいにスイスイとやってきて、日本語で言えば「色即是空 空即是色の因果の法則を示してください」。スニャータ（空）、アパバッタ・パバッタ（無流転・流転）のパーリ語で言えば簡単なことだけれど、回答に詰まった。そのときはもう150人いたけど、針が落ちても音が聞こえるくらい全部、凍りついた感じ。行者としては、すべて命を賭けて法を求めるからね。命一つ落すくらいは問題ないわけです。私もヒマラヤに行って6200mの峠を超えたりね。そういう肉体体験を通してこそ度胸ができていくわけです。だから、ミャンマーの最高峰（ウ・レヴァタ長老）に一騎打ちかけて、それを一本パーンと取ったということで、衝撃を受けたわけですね。だから、私は今でもミャンマーでは伝説の人間になっているわけです。だから、そこまでやって初めて法を伝えていくと。



水源禅師とパオセヤドー

だから、今回もパオセヤドーに「大乘もテーラワーダ（南伝）もヴァジュラヤーナ（密教）も実は同じことです！」と言ったら「全くそのとおりです！」と、皆の前で回答したから、聞いている皆さんがショックを受けてしまった。本質を見たら、一つも違わないわけです。ただ、教える方々がどの立場にあるかによって手法を変えていくということが、大乘・テーラワーダ・ヴァジュラヤーナなのです。ヴァジュラヤーナの有名なタントラヤーナ（密教）は極秘中の極秘で宮殿にしか教えられない法なのです。これはスリランカにちゃんと伝わっているけど、これは言わない。絶対に教えません。学者が10年20年たって分からないこと。スリランカ大学で20年パーリ語を教えている韓国の教授がね、20年いても、それを目にしなかったことをサッと見せてショックを受けていました。サンスクリットからティピタカ（三蔵）全部知っていても、このような秘法に出遇えることはないわけです。20年いてもです。

だから、「すべてが因縁だ」というわけ。特に、南伝、ティピタカ、ティピタカと言うけれど、1500年前にポロンナルワ¹という、密教の大聖地でね。ポルトガルヴィラの王様が1500年前に『金剛般若波羅蜜多經』を手を持っているわけ。『金剛般若波羅蜜多經』は達磨大師が「このお経は非常に重要である」と指して、パミール高原を渡ってインドに帰って往ったわけなのです。達磨大師様が指し示した『達摩多羅禅經』というのは、開いてみたら、ほとんど今やっているパオのヴィパッサナー（観）の教科全部、入っています。だから、旅することによって、実態が分かっていくのです。

¹ スリランカ北中部州にある中世の古都。1017年から1255年まで首都であった。

ミャンマーはテラワードの大国で、密教とは全く関係がないところだと思っているでしょう！？ところが、バガンのマハムニというすばらしい仏像は鎧を着ているわけなのです。チベットの最高峰の仏像も城関（ラサ市）にあります。そこもまた鎧を着ています。ヤンゴンあたりに行けば、鎧が消えているのだけれど、東西南北、四方に仏を配していますね。これは密教では必ずやらないといけない四方仏、東一阿閼仏。南一宝生仏、西一阿弥陀仏、北一不空成就仏、そして真ん中が毘盧遮那（大日如来）になっています。すべてその配置になっています。パヤーを見ても、どこを見ても。これはバガン、1000年前、密教の聖地で、その建物はすべてその形式になっています。インドネシアのプランバナ（ロロ・ジョングラン）というのは、ヒンズーの寺院だと学説的に言っていますが、この建物は全くバガンスタイルで、ヒンズーの建物と全く関係のない造り方です。ただ、それをごまかすためにね、仏像があると思われるところの巨大な寺院の外側、全て削り取られていました。

私はインドを旅していたことがあります。インドを旅したそのときは在家だから、私、頭を剃ってね、ヴィブーティー¹をおでこに付けて、「お前ヒンズーかい？」「はい、そうです」と、奥殿に案内されて普通、観光客は前だけしか見せてもらえません、中は見えないのです。仏教徒も仏衣を着ているから中に入れてくれません。そのとき私、在家でしたが、頭を剃って「おかしいな」と思っても、ここにヴィブーティーを付けているからね。そして、白い衣を付けていくから「ヒンズー教ですか？」「はい、そうです」と言ったら、サッと奥の奥殿までいくから、奥殿の内容まで知っているわけです。そこはイスラムの人は見えません。絶対に入ってはいけない聖地。仏教徒とか、そう言う方でもめったに入れられない。なぜか私、案内されて、究極のお祈りの場所に連れていかれたわけです。

だから、そういう実態を知っているから、プランバナがヒンズーのお寺というのは全くの嘘です。あれは完全にバガンスタイルの密教の建て方しています。なぜ、それがヒンズーのお寺かと言ったら、六つ建物があつて。小さい一つが「牛」を飾っているものがあるのですね。ところが、内部を見たら、インバートルピラミッドの造り方をしています。それはヒンズーでは絶対あり得ないこと！インバートルピラミッドは密教の秘密の造り方で、(ブータンにもこのような造りのお寺があります。ブータンにも行ってぜひ討議してみたいと思ったのですが)日本に来ている情報と現場とでは全然、違うことが行われているのですね。前にもお見せしましたが、これがタントラーナの秘伝中の秘伝なのです。こういうことは、仏教が伝わって以来、皆さんが初めて本当のタントラーナの経典を見ているわけです。大変な秘密があります。スリランカで20年、パーリ語を教えている教授であっても見ることができない。ところが、日本では大学の経典とか解説されたものが根本になっているから、的が外れることが非常に多い。

¹「神聖灰」のことで、サンスクリット語では「力、能力、偉大さ、繁栄、威厳、荘厳、光輝、灰等」を意味する。

水源禪師の教え方

今回、明快に分かったのは、日本に来ている手法と現場の教え方と大きな違いがあることです。ミャンマーの旅で昨日お話ししたように、ミャンマーで非常に注目されているのが、禪法なのです。サマタ（止、禪定）。なぜかといったら、行者が10年、20年、ヴィパッサナー（観）やった場合には、頭でっかちになっていく方があるようで、修行ができにくくなっていることらしいです。私が「丹田呼吸してください!」と言っている、そこがしっかりしていないから、今度ヴィパッサナーが持続しなくなるわけです。できなくなってしまう。

5年前にウ・レヴァタさんに私が一騎打ちかけたとき、私早く出たかったから（笑）。それで、回答できなかつたということで、私が指摘したことが分からなかつたわけですね、私が「ここをどういうふうに観ていますか」ということ。「色即是空 空即是色」でちゃんとあるのです。最終過程の経典に書かれているわけです。「アパバッタ・パバッタ（無流転・流転）、スンニャータ（空）」。空の本質ですね。「その因果関係はどうなっていますか?」と言って、回答できなかつた。（ウ・レヴァタ長老が）「3日待ってください!」と、禅ではそれは当然許されない。一発勝負。回答するかしないのです。数分という時間だけで。結局、体験しているかしていないかということになるから。もう文学ではダメ! 追跡できません。だから、「観たのか! 観てないのか!」、まあそれで「私はここで去ります」と。ミャンマーで大ショックを受けたわけですね。

今回も、案内された方・会う方は、皆トップ階級。マンダレーの住職とか、ヤンゴンではスタンレーパオ分院。そこに皆、修行に行きます。その人にも、何に一番興味を持って聞かれたかという「あなたはどういうふうにして教えていますか」ということが、最大の私に対する興味だったですね。私はパオセヤドーにも言いましたが、20年、30年の僧侶クラスの方は、経典を読み過ぎてなかなか進化できない。殻の中にはまってしまつて。だから、これを打ち破るためにダンマ（法、真理）を持たせます。ダンマを持たせる最高の方法はヴィパッサナーをやらせます。直接ヴィパッサナーに入ります。それで皆さんに前回は「夢のことを書き続けてください!」と言つたでしょ。それは非常に大きな意味があります。ヴィパッサナーの門を開けるドアの鍵があります。そういうことで「夢をどんどん書き続けてください」と言つたわけです。私の弟子が今度30年目ですね。スリランカに3年目に入って瞑想続けていますけど。

インドの有名な瞑想行者でラーマナ・マハリシ¹ (1879-1950) という人だったかな。「Who am I?」これをまともにやってはダメなのです。一人一人のカルマ（業）があるから。カルマに当てはめて、これを見せないといけないわけなのです。ステレオタイプ的に「これだけ!」というのは絶対に仏法ではあり得ない手法なのです。一人一人、解析して教えていかなければいけないわけです。韓国で20年、25年クラスの比丘尼が苦しんで通過できない、進めな

¹ ラマナ・マハリシともいうインドの聖者。悟りに到達するためのまっすぐな道として、アートマ・ヴィチャーラを強く勧めた。アートマンは「自ら、自分自身」、ヴィチャーラは「探求、吟味」。

いと。それで、私がニミッタ（丹光、禅相）を発射して何が観えるかと。ニミッタというのは鏡なの。観えてしまう。ただし、何も修行しないで観えるということは、めったにあり得ない。前世の因果関係によって観えることもあるけれども、本当に修行している人は、大体15年、20年やれば観えるわけです。

私がニミッタを出すと、たくさん修行された方には、鏡に映るみたいに、いろんな現象が観えるわけです。観たこともないような映像とか。だから、そういう方々には鏡に映ったそのものを私が解析して「あなたここしなさい！」と。そういう手法をとるときは、パオと一緒に1時間半、坐らせます。大体1時間半位の力があれば、心が非常に落ち着き始めて、1時間あたりから何か現象が起きてきますから。40分の場合は心平安でよいのですが、もう少し、だからパオでは1時間半と。修行が進めばぶっ続けで3時間。それでもパオセヤドーが納得いかないときには、行者に「5時間、坐ってください！」と。「5時間、ニミッタ出してください」。昨日も言ったように、韓国の70歳になる校長先生が退職して、そこに行ったときに「あなたは強いニミッタをしてください！」と。「強いニミッタ」とは何かと。「長時間それを持続して観ること」。7時間半ぶっ続けで坐って「それでは、あなたを第一禅定に入れましょう」と。

だから全然、日本と現場では違うのです。本物の行を受けるものだから、いろんな現象をどんどこ観てしまう。人から聞いた例、さっきのラーマナ・マハリシさんですか、「Who am I?」、私が1年前に彼のやっている行を解析して、「Who am I?」を違う手法で観せたら、どんどん進化しています。相当な域に達しています。

仏教の最高の行法は「一体、自分は何であるか」ということなのです。つまり、「無我」と言うと、簡単だけれども、「それを本当に観たか」ということなのです。

今回、ミャンマーで14年修行して、在家で4年マハシやって、10年パオやって全教科やったけれども、空の世界に入れられないということなのですね。その方は過去4回動物でした。6回は女性でした。では「ニミッタ発射するから、何が観えるか観なさい」と言ったら、ちゃんと観える。「あなたは慈悲の瞑想が」—慈悲の瞑想は、本当は難しいのです、第四禅定で深く入って行ってすべてやらなくてはいけないから、一般用に慈悲の瞑想は世界的にあります。心が落ち着くから。人のためということで、それは悪くないです。そういうことで—「あなたは、つまり慈悲を深く観る必要がありますね、慈悲とは一体、何か？」と。ということで、まず千回、観音様のマントラ（真言）を教えたわけです。「はい分かりました」と。

他の側に坐っていたティーチャーズポジションの最高位の方も側にいて観て。「先生、私もあなたと同じようなものを観ました」と。結局、一般の人は分からないから、ティーチャーズポジションとか、すごいものだろうとか、噂、噂でやっているのだけど、実際は全く違う方法でやるし、こういう話も本当は私も言いたくないわけだ。これは、比丘の修行している行者の間だけのことを日本に報告しているということは「間違っただけで行かないでください！」というメッセージなだけです。

パオを本当に終わったら、あっちで勲章になります。肩書きになります。私はミャンマーでは「カマタナチャリア」（瞑想の教師）ということで「完全に法を教えられる方」ということなのです。だから、スタンレーパオ分院にしても、ヤンゴンの非常に広大なところですよ。

マンダレーパオ分院にしても非常に大きな、そういう住職たちは何を一番知りたいかという
と、「私が一体どういうふうにして教えているか」。5年前にウ・レヴァタ長老と一騎打ちや
ってポーと一本勝負でいったものだから、それを見て驚愕しているわけ。前代未聞の早さ
で通過してしまったから。そういう人は誰もいまだに出てない。ミャンマー国内ではおるか
もしれないけど、最低2年半から3年かかる。

禪の問題点

それで今、一番、注目しているのが「禪」ということなのです。でも、本家本元の禪がま
た禪で苦しんでいるわけです。結局、型にはめられすぎてやっちゃっているから、型の中
の行法になって、卵の殻を破れないという矛盾が起きているわけです。どちらも同じ現象が
起きている。ヴィパッサナー（観）の方もその現象。サマタ（止・禪定）の韓国の行法でも
同じ。どっちの国も文献仏教は patipatti（信、解）¹とってセカンドハンド（間接的）の
知識なので、patipatti では法（真理）を本当に体験できなくなるわけです。だから、patipatti
の学者の話は一般用として、本当に知りたい人はパチパナを求めるわけです。だから、あつ
ちでもソータパン（預流果）になったといたら皆、押し掛けて質問するわけです、それで、
質問に回答できないといけないわけです。回答した話で「ああなっている」「まだいってない」
ということ。どちらの国でも質問を受けるわけです。回答を明快に示さないといけない。

私は非常に微妙な立場で、密教の行法もやるし、大乘の禪法もやるし、南伝のヴィパッサ
ナーもやるということで、分類的には非常におかしな立場だけれど、本質的には全く一つも
変わらない。空の世界を観たら同じ現象を起こすから。だから、どこでも何でもできるはず
です。本当に空の世界に達した場合には、何の行でもできなければ、それはちょっと疑問に
なるということ。

今から40年前にダライ・ラマさんから直接、教えてもらったことは、こういうふうね、
「君たちはまず四界分別²やってください」。南伝で四界分別、ルーパ³・物質を観る。それが
ヴィパッサナーの第一関門になりますけど、結局、一緒なわけなのです。「四大一地、水、火、
風、この四大をまず観てください」。南伝でも「この四物質を観てください」。その見方はニ
ミッタ（丹光、禪相）を使って観ると。ただ、チベット仏教では、一般のこういうふうな行
法は詳しく教えないし、その時間もないし。ただ、私はその行法をパオに行って分かったの
だけれども。そういうことをしっかり観て、心の作用も観て、そして十二因縁を深く観たど
きに因縁の法則がおぼろげながら観え始めますね。因縁そのものは、宇宙のそのものの力で、
存在そのものなのです。

¹ pariyatti（信、解—信じて話を理解する）：説法を聞くこと。

patipatti（修—文献を研究する）：お経を読んで考えること。

pativedha（證—瞑想で悟る）：瞑想で体得すること。

² 四界分別観：体の要素である地、水、火、風の四大について、その働きを観る。

³ rūpa（色）：変化する物質。

だから、「因縁を変える」とか、そういうことはまず不可能。ただ、その因縁を善い因縁に持っていか、悪い因縁の方向に行くか、その二つだけ。その方向は「クサラ」（善）。善き行い。ということは、いつも平安でウペッカ（捨、静寂）でいるという状態。人を殺すとか、盗みしたら動揺するでしょ。ウペッカというのは、動揺できないということは、何も悪いことしていないと。ただし、朝から晩までいつも寝て食べていたら、やはり心が動揺し始めます（笑）。なまけ、何もしないということで。生きていく間で八正道というものを仏陀が示したけれど、その方向に進んでくださいということなのですね。八正道しっかりできるということは、アリヤ（聖者）の位に入るのだけれども、これがまたなかなかできないけれど、「そっちの方向に向かってください！」ということで。まともにそれを信じてやったって「何が正しいのか」「何が悪いのか」分からないということがいっぱいあると思います。

因縁について

今回、マレーシアで、昨日もお話したように、23歳の男性で私がミャンマーに行く前にサマネーラ（沙弥）の行に入って帰ってきて、皆はもうサマネーラの行を終えてそのまま残っているわけなのですね。それで私をじっと見て話しかけてくるのですね。私は前世のことを覚えています。私は「三つのときから天皇陛下の教育を受け、特別学級に入れられました。そして、中国の南京虐殺に加わりました。そのときに、赤ちゃんを抱いていた女性を刺しました」同僚が逃げていくその方を撃ち殺した。彼は殺していなかったわけですね。そのとき彼がやらなければ、上官から射殺されるから仕方ないわけだ。また、そういう教育を受けているから、日本から見たら彼は名誉の英姿であるわけです。ところが、生まれたところが中国系の華僑のマレーシア。仏教がほとんどない。イスラム教の中で非常に苦労します。24時間、休みなく悩まされます。ただし、私は私のお父さん・お母さん・親族に、一言もそのことを言えない。ただし、なぜか私は日本の方に出会って、この方は会ったことがあるという記憶がある。非常に懐かしく思う。そういうふうにな、そのとき、その方は正しいことをしたわけだ。日本のために戦って。だって、日本を守るとか。

ところが、国が間違っていて、間違えて方針を示して「国が正しい」と言ったからと言ってやった場合には、次の人生は全く違うわけです。「あなたは非常にラッキーです、こういう衣を着られて」、「はい、そうです」、「この衣を着るときはもう本当に辛かった。受け取ることができないようなすごいプレッシャーが来ました。でも、必至になって、この衣を身に付けました」。「もし、あなたがこのまま衣を着けて比丘になって一生を終えれば、その次の世界は非常に平安の世界に入るとでしょう、がんばれば。もしできない場合は三つ守ってください。『人のために尽くすこと』『正直に生きること』『まじめに働くこと』。これを繰り返してください。あなたが今ここで1000億の金を持つのが、目の前の巨大なビルディング二つ手に入ろうとしても、次の世界に持っていけないでしょ。何の意味もないでしょ?」、「はい、そのとおりです」。過去を観ているから。過去では英雄として祭り上げられて、その後、お坊さんになった。なぜか? 一生悔い改めて。そのおかげで最後のチャンスで、またこうして華僑の家に生まれて、その敵の中に生まれてしまうわけなのですね、因果関係で。

だから、「国境はつくってはいけません」というわけなのです。「一切の生命を慈しみ合い、愛しましょう」というのがメッタ（慈悲）の行法だから、国境があるわけがない。国とか地域とか社会を守るために、そういうふうにしないといけないのですが、ある程度バランス取りながら、これが政治家の問題で、政治がよくなるならないは、国民が一人一人そういう叡智を持っていかなければいけないけれども、国としては叡智を持ってもらったら困るわけなのです。だから、アメリカでは出席すれば 50 点（笑）。高校でも、兵隊を教育するのも、漫画本で教育するわけ。まともに字が読めないから、戦車も運転できないわけ。コンピュータゲームを一生懸命やらせるわけ。それだけやればいいから。逆に、知識とか文学とか持ったら、人を殺すとか抵抗感を感じるでしょ？ 一切ない 8 歳か 10 歳の頭だったら、何でもできるでしょ？ そういう頭を持たせないようにする。

ところが、トップは高校のときから、もうハーバード大学に名前を入れてしまう。天才的な人は、そういう仕組みなのです、アメリカというところは。だから、皆さんはアメリカと言えば、私は決してアメリカをけなすわけではない、ものすごく素晴らしいアメリカ人いっぱいいます。ただ、そういう仕組みの中で「アメリカ！皆、天才」、そうじゃないです。ほんの少数だけ。指揮官だけ。あとはもう酒を飲んで遊んでフットボール！そういう世界を推進してエコノミーを動かしていく！と。私が何回も言っているように、実体験として、こういう状態があるから、真理はあなた方、一人一人で確かめて、私が言ったことも検証しなければいけない。あなた方、一人一人が先生であり、修行者であり、そして善い先生に出遇えれば非常に素晴らしい。また、たくさん善い先生がいると思えば、どんどん聞きに行き、それを耳にしながら、また検証しなければいけない。

経典にも素晴らしいことがいっぱいあるのだけれども、その経典を読むには、やはり瞑想の深い力があれば、よく読むことができます。ミャンマーのパオ大僧院で一騎打ちかけたとき、そのとき馬鹿なことを言ったら、150 人いて笑い者になりますからね。この歳で。ウ・レヴァタ長老も正直で嘘を言わない。「待ってください」と。これがエセの宗教家であれば、逆に喧嘩ふっかけてきたり、「お前なんたることを言うか！」とか、そうになってしまうわけ。ところが、本物だから。彼は第一級ですから、お釈迦様の道場で、とても上品に、理論的に話します。ミャンマーを代表する方だから「待ってください！」と。「3 日後に言います」と。禅法ではそれはもうダメということ。現場でパンパンと言わないと。2 回目、韓国でも「1 日待ってください」。まだダメ。1 年置いてもダメ。それで今回、3 回目は違う方法で彼が完全に納得して。

最大の問題は、サマタ（止、禅定）の問題。どういうふうにして、安定させてヴィパッサナー（観）を持続させるかという課題があります。だから、大乘もテーラワーダ（南伝）もないわけなのです。特に、テーラワーダでは戒律が非常に重要で、重きを置いて言われますけれども、ウ・レヴァタ長老にはっきり言いました。「戒律、戒律と言いますが、文化・国が変われば変わるでしょ！」と。「そのとおりです」。なぜかといったら、彼は韓国に来たことがあるのです。戒律を守るために冬に裸足で歩けないから、靴下はいて歩くわけです。それは飛行場で非常におかしく見えます。彼もそれは知っているわけです。ところが、戒律を守るがために非常におかしな行動をしなければいけない、ということも彼は分かるわけです。

だから、「国が変われば戒律も変わるでしょ!」、「はい」。

さっき言ったように、確かに無駄に動物を殺して食べるのはよくないです。今、ヨーロッパで牛だといって馬を売っていると、それも病気になるような肉とか、結局モラルがないわけなのです。私に1億円やるからと言われても、私はしません! 結局、次の天罰が、自分でつくる、自分が自分を罰する、ということになるから。次の世の悪しき世に入っていくから。ところが、西洋社会では「1代だけだ」と。「天国か地獄か!」と。よく考えたら「どうしてお坊さんはいいことばかり起こって、私みたいな庶民はこんなに苦しいのだろう?」「神はどうして平等なチャンスを与えないのだろう?」「これはオカシイ、何もないはずだ!」となるわけです。ということで共産主義とか、現代そういう風潮がいっぱいあるから、宗教すべて嘘ということになるのですが、そうではありません。

宇宙の仕組みと仏罰

宇宙の仕組みはそう簡単なものではなく。宇宙には一千百万のいろいろなファクター、情報が蔓延しているのです。私たちが見えるのは、この光、熱、味、そういうエレクトロマグネティックの非常に小さいスペクトロンしか見えません。それで、40のファクターだけなのです。この全宇宙の放出するインフォメーション（情報）からしたら、ほんの隙間もないくらいしかないくらいの情報で考えているから、結局、ブッダが何をしたかと言ったら、自分の内を観ている。内の大宇宙を観たわけです。なぜかと言ったら、あなた方はこうして第三次元の世界で物質があって見えるでしょ?この光1秒間に30万kmのこの箱のカーテンの中で生きているわけです。その影は見えないわけです。ブラックホールみたいになっている。これがどんどん進行して行って、この時空は、お釈迦様はちゃんと発見しているわけです。光のフラッシング、0.32秒の時間と自分の心のバイブレーションで、私たちの存在はどこにあるかちゃんと分かっているわけ。そのバイブレーションも光で何万回、何千回、何百回、発生するか観えるわけです。そうして観たときは、私たちの存在はナノの小さい空間、時空におけるわけです。無量の過去、無量の未来、この現在、このハイスピード、1秒間に30万kmのスピードで発生しているから、ルーパ¹もね、物質も発生し消滅し、すごい早さでやっているから完全に見えないわけですね。この物質もね、エレクトロンで触っているから、実際は手で触っていないわけです。マグネットあるでしょ。ネガティブ、ネガティブ、絶対に触らないでしょ。だから、こういうふうに触っているような現象だけれども、絶対に触っていないわけ。触れないわけ。触ったらタッチングして離れないわけ。一体になってしまうから。

仏法というのはすごいもので、お釈迦様の足跡を見たけれども、物質がへこむのですね、石が。ミラレパというグル・リンポチェという密教の最高の神通をする方の洞穴がありますけれど、ネパールに。そこの洞窟に彼が触ったら、あまりの神通に石がへこむのです。カッサパ尊者（摩訶迦葉尊者）がいるチベットのカイラス山のそばに非常に有名な湖があって、その西のほとりに阿弥陀を飾っている寺院があるわけ。そこは普通の人は入れないのですが、

¹ rūpa（色）：変化する物質。

なぜかそのときドアを空けてくれて、中に入っていったのです。そうしたら、カッサパ尊者の足跡がパーンと壁にへこんでいるわけです。私たちが考える物質、物理界を超えてしまう、彼らにとっては、というふうに、心の作用というのはすごい力を持っている。

逆に、一旦、悪いカルマ（業）を造っていけば、その悪いカルマから抜け出られない、ということなわけですね。だから「善いカルマを使って、いかにして涅槃の世界に行くか」ということが、お釈迦様の宇宙の最高の教えです。皆さんこうして仏法をやっているのも「すべていかにして涅槃の世界に到達するか」ということで「できるだけ間違いのない大道を通ってください！」と、私は言っていることなのです。ショートカットは非常に素晴らしくていいように見えるけれども。それが本当にお釈迦様の教えかどうかは確かめてみなければいけません。

韓国で非常に有名なニンマ派のリンポチェが来て、慈悲の瞑想を教えると、それは禁じ手を使って教えているわけなのです。それはブラフマ・ビハーラ¹ (brahmavihāra : 四梵住) というお釈迦様の教えがあって、その変形で、もしこれが正しい教え方であれば必ずルupaが観えないといけない。というのは、ダライ・ラマさんが直接、私に「このルupaを観てください」と言っているのだから、必修課題なわけです。だから、フランス第一哲学者の息子でチベット仏教8年修行していて、これを彼が推進しているわけです。今、日本でも「慈悲」とかなんとか言って「好きな方を瞑想して」とか、これ禁じ手なのです。私はこの方に「あなた方はルupaをどういうふうに観ているか言ってみてください！」と。言えない。観ていないから。観もしないで、それはできないはず。想像によって、そういうふうな間違っただけの教えすれば、この方は天罰を受けて、仏罰を受けて、それはそれで、それを信じ込んだ人はどうなるか！？ ということで私はそこで止めたわけです。「一つ考えてください！」と。まあ、そのままやるかどうか分からないけれども。そのとき、ものすごくショック受けたのは最高峰のリンポチェが回答できなかったことです。

ボロブドゥール、火天、三十七仏

それで、日本はね、逆に1200年前に弘法大師様が、密教の神髄をここに持ってきているのだけれども、「アナパナ」(入出息念)も全部、言っているのだけれども、なんか観える人がいないみたいで。チベット仏教より200年前に密教の正統派が日本へ来ているわけです。チベットの方は金剛界しかないけれども、日本には胎蔵界・金剛界二つあるわけです。

これが非常に重要な意味、これから話します。これが二つ作用して涅槃の世界に入っていくという最大の問題がここに発生して、その方法を龍樹菩薩が構築したわけなのです。インドネシアで、ボロブドゥールのピラミッド。ピラミッドと言えばエジプト、南米の有名なメキシコシティの隣にある巨大な、名前は忘れましたが、そういう巨大なピラミッドを構築するとか、それからボリビアに行っても数万年か数千年前に原爆戦争を起こしたのか？ なぜか知らないけれど、ピラミッド型の大地をつくって、それから有名なマヤ文明のチチェン・

¹ 四無量心(慈悲喜捨)の瞑想：慈・悲・喜の瞑想は第三禅定まで、捨の瞑想は第四禅定まで行ける。

イツァに行ったら、やっぱりピラミッド型にする。そして、密教の聖地でクティというのがあるのですね、お坊さんが勉強する。インバータルピラミッド・クティにしてあるのですね。必ず中がインバータルピラミッド型。メンドゥという胎蔵界、小さい建物です。そこもやはり中はインバータルピラミッドの空間をつくってある。

私がインドネシアに行って、なぜそこで護摩焚きをしたかったかと言えば、実は2003年のインドの旅でサルナート、お釈迦様が第一説法したときに、その白い服を着た、服と言っても衣ではありません。よく見る白いズボンはいて、おじいさんが現れて。そのおじいさんが白い石の門、そこの外は緑色の鉄の柵が立っているわけ。その後ろが巨大な丘になって、一本の天につく木が立っているわけです。何百 m か知らないけれど、ちょうどスカイツリーみたいに非常に高い。ただ、私が瞬間的に思ったのは「この方はエデンの園を守る神である」と瞬間的に分かりました。それを探すために全世界どこにあるかということで、南米にありそうだと言って、南米のトロフェエーロという、ベネズエラのある石油が出るマラカイボ湖の近くの2600mの上にマリア様が立っている。おとぎ話のような素晴らしいところでした。そこに行ってみたり。ずーっと旅を続けたわけです。それで、なんと昨年、ボロボドゥールに行ったら「ワー！同じ景色」。9年にして白い石の門、緑の柵。もちろん、その方は立っていません。そのときに分かったのは、どう読んでもこの方は聖書に出てくる老人と同じだと。その老人はすべての神といわれている方、全能の神。そして、bush fire（燃える柴）という火天ということが後で分かった。

仏教でも老人という方は火天神しかないわけ。密教をやるときの行は火天神から始まる。まず三角の火をつくるという行からまず始まる。三角というのがピラミッドに関係してしまう、というのが分かりました。全世界、過去ずっと何万年、何千年、学者でいろいろな見聞があるけれども、私たちは前も言ったけれど、数万年どころか数十万年、どれくらい深い時空を超えているか知りません。ただ、一般的に言われる歴史観的には5000年。今は10000年。今、日本でも13000年とか、どんどん変わっていくから、まあそこは置いておいてね。ただ「あー！この三角」ということは、やっぱりピラミッドに関係している。そして、お釈迦様が悟りを開く前に、驚くべきことに三角が後ろに現れるのですね。そのボロボドゥールの図面で。それは經典では分からない。その刻印しているから見えるわけです。だから、現場に行かなければ分からない。

そして、レディセヤドーは南伝の最高峰。1846年生まれで、それが今のミャンマーの仏教の土台になっています。この方が「三十七仏が非常に大切である」と。韓国のお坊さんがよく密教を学びにインドのダラムサラに行くのですよ。数年間とかね。そこで何を教えられるかと思ったら、ただただ「三十七菩薩の行」をやらせる。一生懸命、読んで、patipatti（文献学）¹になるか、pativedha（瞑想）になるか分からないけれども。そこでピンと来たのが、ミャンマーでカルマ（業）の法則を調べに行ったのだけれども、逆に、「皆さんがいかにして涅槃の世界に入れるか」という鍵をもらいました。それが三十七仏だと、すぐ分かった。

¹ pariyatti（信、解—信じて話を理解する）：説法を聞くこと。

patipatti（修—文献を研究する）：お経を読んで考えること。

pativedha（證—瞑想で悟る）：瞑想で体得すること。

ボロブドゥールでの護摩行

それで、ボロブドゥールに行って護摩行やるときに、なんと世界遺産なのです。世界遺産の中で普通、火を焚かせてくれないですよ。インドネシアでは最高に有名なパンニャバロ長老がちゃんと手配してくれて、世界遺産の公園の中で、そしてボロブドゥールのピラミッドが見える丘の上でやらせてくれたのです。それで、なんとか日本から来られた方々の協力を得て、まあなんとかうまく行きましたね。そういう本当の行をやる時は必ず龍神が現れるのです。雨が降るのです。だから、屋根の下でやるしかない、火を焚くから、消されたら困るから。私が房総半島で行をやったとき、最後の日はすごかったです。ウァーッと風は吹くは、雨はザーと降り出して。お堂だからできるけれど、龍神様ですね。青龍が権化で。

仏と龍は関係してしまうのですね。なぜかといったら、次の弥勒菩薩は龍の国に生まれて、龍の木の下で悟りを開くわけ。それが56億7千万の未来、それが1劫¹になっていますね、計算したら。だから、龍神が来て一生懸命、仏を守ろうというのは、次のカルパ(劫)のとき、龍の国から龍の仏を出すということなのだと思います。だから、『達摩多羅禅経』を発見したのはお釈迦様の歯がまつられている仏牙齒寺院(靈光寺)なのですね。そこを3回まわって瞑想したときに四つの牙が現れて、グワーと迫ってくるわけですよ。仏がワーと口の中に出ているわけ。それで、グーと回ったら龍神がちゃんとそこにいて玉を持っている、口の中に。帰るときに本屋さんに寄ったら、達磨大師の『達摩多羅禅経』が手に入って、中身を読んだら、南伝と北伝と少しも変わらないということが分かった。そういうふうには私たちの智慧ではかれないようになっていきますね。

だから、そこで三十七仏、それが密教の最初に出てくる三十七仏の、三十七びったり合うわけ。その全部の仏の真言が日本の密教に残っているわけ。それで教えてもらって、それを唱えて、その丘でやり始めたわけです。そして、なんと丘が「ブオーン！」と動くの、本当に！その現象は房総半島でやったときも、本当に山も動くブオーン！と。そのことはカナダで拝んだときもあったけれど、私と一緒にいた方みんな感じていますからね！ブオーン！と(笑)。やっているときに象さんがね、遠くで聞こえる。私は遠くからしか聞こえないけれど「パオーン！」と長いことなんか鳴くわけ、喜びの声か何か知らないけれど。それでザーッと雨が降ったり、風がワーと来たり、天がスーと晴れたりね。それでなんとか終わって、喜んで。私、気持ちがよくてね。その後、公園を守る警察の方なのですね。そういう素晴らしいところでやらせてもらって、すべてのボロブドゥールの警備員は何が起こっているか知っているわけです。逆に守ってくれているわけです。完全にできるように。私がした、その丘にタイの国のお坊さんが、この3週間以内に仏を建てるといふ。

それが終わって皆ゆっくりして、西の方から拝むのですね。西の方から拝むときに私が現象で観た「青不動」を出して拝んだのです。その青不動がピラミッドの上に乗っかるのです。結局、毘盧遮那の権化ですから。毘盧遮那が来た。そして、私なんとか大任を果たしたと。

¹ 劫の時間は経典によって相違があり不明瞭であるため、現在、誰も明快に回答していない。

これを火天様が私にやらせるために、あちらこちらと9年間まわしたと思います、第四禪定からすべて教えてくれたのだと。このために私は生きてきたような感じがしてね。そして結局、西の方から拝んで、上がるのも西。西はすべて「阿弥陀」の印を組んでいるわけ。

私が神護寺で灌頂を受けたとき、それも1200年ぶりに初めてオープンして。私が行を終えた次の日だからね。もう行かなければいけない。23日に行を3時に終わって。京都に行って、次の日に神護寺で灌頂式。そして「あなたは火を焚く資格があります！」ということ。灌頂を受けた場合には、それやらずにしたら、やはり法を曲げるということになるわけです。だから、セッティングされているわけです(笑)。私がしようと思ってもできないのだけれど、1200年ぶりにそれがオープンして、終わった次の日に灌頂式で、それが終わって28日というのは不動明王の護摩焚きの日なのですね。それが三千院にあって天皇家のお寺なのですね、三千院は。それをずっと垣間見て、自分のやったのと検証できて、そしてミャンマーに行つて、アロートピュエ仏陀といって、これは20年間、バガンで瞑想したのですね。この仏陀が現れてきて、これは西の仏なのです。そして「願いが叶う仏」なのですね。この印はどうも阿弥陀の印を組んでいると。浄土真宗の方がいて「阿弥陀の中にもこの印があります」と。というふうなことで、やはり西と関係するわけなのですね。西から上がって行って西から下りるわけ、ボロブドゥールでも。東から下りようとする、警備員が来て「いやいや西から降りてください！ちゃんとあなたを待っていますから！」。不思議なことにすべて西、西、西。

なんとそこに一つだけきれいな仏像がぽっかりと坐って、石の覆いをかぶっていないわけなのです。その眼が、私がやったその丘をちゃんと見ているわけ。ピターッと目線で合っているわけ。いやー、びっくりした。ここまで奇跡が起こるのかと。それが、私が観たら本当に生きている人間と少しも変わらない。石であるのだけれど、本当に素晴らしい人間の顔をしているわけです。仏に遇えたような気になって。そして喜んで、その晩も西で見て太陽が落ちて、西からすべて西、西で。豪華な食事を日本の皆様からごちそうになって(笑)。

メンドウの中間にパウオンというお寺があって、すぐ私たちが泊まった側なのです。ホテルもパンニャバロさんが食事代から部屋代からすべて全部、私のために払ってくれて、パンニャバロさんが南伝のタイの仏教にもかかわらず、密教のことを深く知っているわけです。聞かれたことは「あの三角形のあれやりましたか!?!」、火天神ね、言えないから。「はい、やりました」と。非常に喜んでる。「あなたはボロブドゥールを守る方なのですね!?!」、「はい、そうです」。夢でちゃんと観ました。このボロブドゥールはイスラムの国だから仏教のこととして守れないわけです。それで世界遺産として再生されたわけです。これをやった方がインドネシアの空軍の中将。国家関係で非常に力を持っている方で、この方がイスラムなのに非常に仏教に帰依して、これをつくり上げた、世界遺産とか守って。

だから、今のインドネシアは世界的な観光地が二つある訳です。ボロブドゥール・プランバナ(ロロ・ジョングラン)このあたり。それとバリ島。バリ島も密教の聖地です。バリ島のお祭りは密教の在家の方が守っている。お坊さんがいないから。なぜかといったら、バリ島の卍ですね、逆卍なのです。密教では左、左やって、右、右で立体感をつくる。卍はこっちから見たら仏教だけれど、あっちから見たら逆卍になっている。立体なこと、三次元を

示すわけです。だから、バリ島のどこの寺院に行っても逆卍使うわけです。在家の方はこっちから見て。それで門をくぐったときに「阿耨多羅三藐三菩提を得られます」という、ちゃんとサインが出ているわけ。「最高の涅槃の世界に行けます」と、ちゃんと刻んであります。

「阿耨多羅三藐三菩提」ということが分からない人は何の意味か分からないけれど、「変な刻印があるな」くらいだけれど。完全にあれは在家の密教のお寺。だから、それは十二世天神をまつているわけです。密教では十二世天神と。日本では神社ですね。だから、日本の神社も仏教と非常に密接な関係があるけれど、何か西洋の方でこれが崩されて、大変な宗教であるのを逆に思想宗教にしたところがあるから、これが非常に災いしたみたいですね。

それで、パウオンがメンドゥとボロブドゥールの直線にあります。その中間あたりに小さい寺院がありますと。そのことはホテルでも言われたけれど、私は疲れきってね！寝て、寝て、休息とった後に、そこに皆で行ったわけなのですよ。そのポイントは西洋で言えば、ゴールデンポイント、聖なるポイント。最も美しいゴールデンレイショウ (golden ratio) という旗。中間点が美しいのか、ちょっと横が美しいのかという。ギリシャでは $\sqrt{5+1}$ の半分：1になるわけ。1.618。それをずーと検証して距離を調べてみたら 10 分の 1 の誤差で、1.5 なんぼになるのですね。非常にゴールデンポイントに近い。ただ、ボロブドゥールの場合は整数を使ったわけ、1750m 対 1150m で、ちょうどゴールデンポイントに近い。ほとんど 100 分の 1 ではなく、1000 分の 1 位の近い誤差で発生してしまう感じだったのです。そこで皆さん瞑想したわけ。その図形がまた素晴らしいですね。私がこう坐って。右、左が女性。そしてもう一人女性。左に男性、男性、右に一人男性。メンドゥはね、観音様が見たときに右になって。左がヴァジュラサッタ (金剛薩埵) が坐っているわけ。ちょうど三角、三角が組み合わさったわけ、自然に。そこで瞑想したら、なぜか私はホワイトカシナ (白遍) で第九禪定を使ったのです、普通は密教は私の場合、第四禪定ザーッとやるのだけれど、そのとき、なぜか不可思議な空間が現れてきてね、まず不動明王がパーンと降りてきたのね、映像として。次に、私の素晴らしいお釈迦様、仏陀がね、パーンと降りてきてそこに坐って。その後、大空間が発生したわけ。それは「マハーニッバーナ・ダートゥ」(大涅槃界) ということで大涅槃界に皆さん入ったわけです。これを密教では即身成仏と言うわけ。これが本当の即身成仏。あとナーマね。心の開発だけで、体はその世界に入ったわけ。ナーマは分かる分からないとしても、そういうすごい栄光を受けたわけ。

そのときに分かったのは、これはだてに造ったものではない、このピラミッドは。このピラミッド、巨大なエネルギーと巨大な時間を掛けて、一つ一つ仏を、大変なことなのです。今の日本でもできないと思う、これだけのすごいものを。そしてこれがメンドゥの胎蔵界・金剛界一体になって坐ったところが、護摩行やる座になって、結界になって、そこから大涅槃界が発生してしまっ、そういうことをやったということが分かった。ピラミッド・マシーンが 1200 年の時空を超えて動き出したわけ。その動かす行法が日本にあったわけ。弘法大師様が持ってきて、その行法をやって、護摩焚きやって、そして、その最も大切な三十七仏を密教の聖地のバガンに行行って発見したわけ。全部つながっているわけ、話が。壮大なスケールなわけです。



パウオンの内壁とオーブ

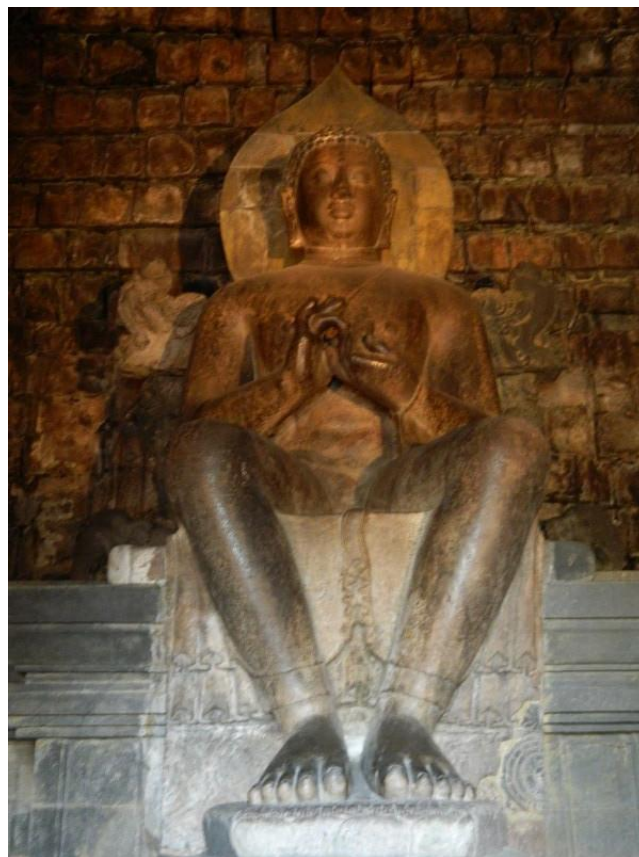
正式な日本密教

このボロブドゥールを造った第一番目の弟子が、龍智という方で、インドから来てそこにいるわけなのです。1代目が龍樹菩薩、2代目が龍智、3代目が金剛智、不空菩薩、全部そこにおるわけ。そして、不空菩薩が中国に渡って、恵果阿闍梨に教えて、すぐ弘法大師に法が伝わったのが1200年前。いやー驚嘆しましたね。日本で1200年、間違いなくこの法を守ってきたと。泉涌寺という京都で天皇のお寺があります。そこのお寺は月輪大師（俊芿）といって、中国で12年、修行に行つてニミッタ（丹光、禪相）の行法を持ってきたの。そのときは難しく、今でも難しいけれど。そして、なんとかそれを守ってきたわけです。だから、泉涌寺は今でも1000年の間、中国の教えてもらったお寺と4年に1回、行き来しています、ずっと戦争があろうが何しようが、仏法はそういうものではないからね。日本でそういう秘法を持ちこたえたと、それを1200年ぶりに受けとって、1200年ぶりにすべてちょうど一体化して、そこで行法をやって、このピラミッド・マシーンが作動したわけです。

そこにちゃんと胎蔵界というのがあってね。なぜ胎蔵界かといったら、金剛界と胎蔵界は同じ形しているでしょ、同じ幕になって。ところが、胎蔵界は二つだけなのです。観音様、Avalokiteśvaraのいろんな形を書いて、左見たら。右側は金剛薩埵のいろんな形、二体をいろんな変形で書いているだけで、胎蔵界を表すこのメンドウのお寺も、Avalokiteśvara、金

剛薩埵と観音様、二つ。真ん中の石像だけが椅子に座っていて、これはチベットの方はたぶん弥勒菩薩だろうと。けっこう分かっていないわけだ。観音様・金剛薩埵があれば、必ずや大日如来（毘盧遮那）なわけ。そういうふうには日本の経典にあるわけ。胎蔵界は日本に伝わったけれども、チベットには伝わっていないわけです。

さっきもお話ししたように、日本には正式な密教が伝わっているわけなのです。金剛界・胎蔵界、それもチベット仏教よりも200年早く正式な正統派がここに来ている。それから、200年後にインドから来たリンポチェが13年間、ボロボドゥールで修行して、それで直接チベットに渡って14年して他界したわけです。この直系が今のダライ・ラマ法王、チベット仏教。ただその後には何が起きたか分からなかったけれども、正統派がどこまで残っているか分からないけれども、逆に今、ダライ・ラマ様がボロボドゥールに来たら、すごい方ですよ、頭を下げると思います。ところが、日本は本家本元のもっと上の方なはずなわけ。本末転倒になっているというのが、今の日本の仏教界になっているわけ。だから、チベット仏教よりも数段上のものを持っているはずなのに、今の日本の仏教界を背負っていけないという、非常に何かおかしいことが、なんて言ったらいいか、分からないことになってしまっているのですね。



メンドウのご本尊である大日如来（毘盧遮那仏）

本来の修行と離れて

結局、patipatti（文献仏教）¹というのは、哲学とか経典仏教は一段下なのに、これが上になった場合はこういう現象が起こるのか。だから、韓国でも patipatti は 2 番目ということで、参考文として非常に大切ですが、行法を持った者が指導するという事です。ミャンマーでもそうです。パオサヤドーも 50 年間、瞑想してダンマヌパサナー（法随観）を突き止めた方とされています。マハシさんもレディサヤドーの流れでカーヤヌパサナー（身随観）を完成された方で、これがまた難しいのです。アッタ（我）アナッタ（無我）の問題がはっきりしないものだから、ある在家の方は 10 年マハシやっただけでも、進化できなかった。

「あなた 10 年やっただけでも、ダメだったでしょ?」、「はい、できませんでした」と、はっきりおっしゃる。「だから今、4 年パオの瞑想やっています」と。結局、神髄はアッタ（我）アナッタ（無我）をはっきりと突き止める必要があります。

これを私はなぜか知らずに数十年前に、この問題に直接、夢を通して体験しているから。夢をジーと観察して行って。だから、皆さんに「まず夢の日記を付けてください!」と。「誰がこれを見ているのか! この夢を」。夢を自分で見ているはず。これがサンカーラ（行、形成作用）を観る非常に重要な鍵になります。サンカーラと言えば「観自在菩薩行深」の行はサンカーラのことです。これ修行の行ではありません。サンカーラですよ。だから、サンカーラを行と訳していますよ、どの経典でも。深く観るといって、その鍵を開ける第一。

だから、こういうふうに関心する人が一人一人自分を見る眼が違ってくるから。「Who am I?」「一体、私は誰?」私これ数年間やっただけでも、ぜんぜんダメでやめてしまった(笑)。という体験があるから、すべて体験から教えているわけ。本丸暗記して「その私は誰」、これを回答する誰もできないはず。一人一人の因果関係があるから、それにそって教えていかないといけないのです。ところが、お寺としては「絶対、教えてはいけません」と。「苦しみもがくくらい苦しみなさい!」と。自分自身で回答するしかない、そうしなさいということ。私は在家であったから、やっぱり鍵を解いて道を見せてあげたいわけですね。やはり僧界となると厳しいもので教えないみたい。自分で道を探しなさいと。でもね、今の現代では皆さんは朝から晩まで働くシステムだから、どうしてこの垣根を破っていけるかとなったら、やっぱり誰かドアを開けてあげないといけないでしょ!そういうことが今、世界的に起こっているわけなのですね。

スリランカでも葬式仏教と日本で馬鹿にするけれども、あの方も在家の方に呼ばれたら、行かなければいけないのです。修行どころか、朝早くお経を読んであげて、食事を受けるために行くわけですね。そこでダンマ（法、真理）の話をしたりしてね。そうしたら、もう 1 日終わりで、修行どころの話ではないから、その繰り返し。だから結局、経典を読んで、そういうふうになってしまうわけなのですね。だから、今、一番問題視しているのは「いかにして瞑想するか!」ということが最大の課題になっていましたね、スリランカでは。明日また話しますけれど。

¹ pariyatti（信、解—信じて話を理解する）：説法を聞くこと。
patipatti（修—文献を研究する）：お経を読んで考えること。
pativedha（證—瞑想で悟る）：瞑想で体得すること。

インターセプトカルマ、法に会うこと

ということで、このインドネシアの護摩焚きはすごい体験をさせてもらいました。23日、大涅槃界が発生して、その方たちは過去に素晴らしい仏縁を持っているのでしょうか。その知る、知らないとして、すべて因縁だから。因縁しかないわけです。それで、この因縁ということを追跡するために、私はミャンマーに回ってインターセプトカルマ。ジェット機で追跡してバーッと捕まえるみたいに。いいところを捕まえると。アングリマーラが999人殺して、お釈迦様がパッと出て。インターセプトカルマですね。そしてアラハト（阿羅漢）の位に上がって涅槃界に行くと。殺された方も、そうしたアラハトに全身供養したから、必ずや素晴らしいカルマ（業）をもらっているわけ。魚も私にこうしてご神体を与えてくれて、私が「頂きます」と食べているから、菩薩行をやっているわけです。生きとし生けるもの、これが菩薩の神髄なわけですね。

だから、私が「牛に生まれて、私の肉を食べてもらう」という菩薩行をやったことがあるわけなのですね。今から18代前の過去世で、そのときにカクサンダ仏陀（拘楼孫仏）の牛舎の牛が私だったわけです。そこで、すごいダンマ（法、真理）を受け取ったわけです。その前の前はお坊さんで、木の下で死んでいった。なぜ死んでいったかと言ったら、一生かけてダンマを探しても出遇えなかった。ただただ一心に「ダンマに会いたい、会いたい」と思って「ダンマを聞きたい」と、旅を続けて木の下で死んでいった。次の次はなんと幸運なことにカクサンダ仏陀を引く牛になって、仏陀の側にいつでもおったわけ（笑）。牛であっても、というすごい幸運を受けた。法に出遇うということは、牛に生まれて遇おうが、何に生まれようが関係ないのです。

だから、お釈迦様の話を聞いていたカエルが法を聞いていた。ある人が間違っ杖をついた。そうしたら「かえるさんが天国に上がった」と、お釈迦様が言って『ダンマパダ』に書かれてあります。だから、「むやみやたらに殺したらいけない」ということはよく分かります。ただし、本人としてはダンマを聞いたものだから、幸せなわけなのです。一瞬にして天国に生まれ変わるから、死というものはないのです。ただ、永遠不滅の法則は物理と一緒に止めることができないわけ、一旦、発生したら何に生まれ変わろうが。

こうして「人間界に生まれて、法を聞ける」というのは宇宙最高の栄華を受けているわけ。私の体験として、法を一つ聞くために一生、歩き回ったけれど、一回も聞けずに木の下で死んでいったのです。だから、こうしてミャンマーでびっくりしたのは、ヤンゴンにある、スタンレーパオ森林道場分院でお経を読んでいるとき、かえるさんが動かないの！ ジーと。ジーと聞いているの。お経が終わったらすっと消えちゃって。普通動くでしょ！ ジーと動かない。というふうに。

不動明王の護摩焚き

それで28日、これも満月の日。11月28日も満月。12月28日も満月。これ奇跡的なこと。今年も1回も28日の満月はない訳。28日は不動明王の護摩焚きの日。そして今度は、前は西からやったから、夢のお告げで「東からやってみなさい」と。一瞬にして出てくる。もう天界が見ているわけなのです。「そのときは赤不動を使ってください」と。それで赤不動もパーンと見せるわけ。「こういうふうにご覧ください」と。それで、あのとき驚いたことに、赤いロウソクがタワーと垂らして、あれが赤不動の印で。参加者の方が曼荼羅を飾ったのですね、それで他の参加者と私と二人いて、ちょっと赤いロウソクを立てて、常時、見ていたつもりなのですが、ちょっと視覚が見えないところにいたので、ふと気が付いたら、赤いロウソクが曼荼羅のところにダラダラダラダラとなったのですね。

護摩焚きの時間、午後1時から6時、前は朝の6時から1時。時間も決まっている。私が話していたら、天界でダーンと音がする。「護摩焚きを今はじめてください、時間です」と言っただけで1時、大爆音。そうしたら、やっぱり雨が降るのね、途中でダーッと降ったり。だから屋根がないと、できない行法なのです。龍神が出てくるから。それで、終わったわけです。ダダダンと雷が鳴ってね。なんと雷というのは「上から下に落ちる」じゃないんです。空中を龍神のようにバーと右回り、時計周りで回っていく！ダーッと落ちない！ダダダンと。本当に！（笑）

本当に町中、見える視界全部の空が光と雷がとどろき渡る！初めて見ました。横に回っていく！ダーッと。天空は網の目のように！そういう行法があります。結界をつくる時に。こういうふうにご覧いただけますね、結界。これが天に傘をかけて下を守る。そういうふうにご覧いただけますよ、屋根をつくる、パーンと。だから、人間界で考えるような、それだけではこの世の中動いていません！というわけです。ちゃんと見ているわけです。終わった途端にそれが発生するからね。それで、私は仕方なしに車も何もないから、帰るときにメンドウのお寺から、一人だけバイクタクシーで帰して、残った方と私が歩いて、とことこと気持ちよさそうに、そしてホテルに入った瞬間にダーッと大雨が降るからね！嘘みたい。本当に。それまでダーンと雷が横に走るのですね。横ですよ。見たことない。これ結界が完成しました。だから、私が前から言ったように、これから2年後は精神界が非常に大切になります。

満月の日の光がね、人間が見たら「何かおかしいな！」くらいですが、カメラで撮ったのです。ウワーッと光が回っている。強烈なフラッシュが月から出る。口では皆さん信用しないから！（笑）だから結局、人間界で見える眼のファクターは40、見えないのだけれども、こういうセンサーで見たら全然、違う現象を起こしている。



不動明王の護摩焚き（2012年12月28日）

大涅槃界

だから「まず仏に帰依してください、心から」。間違いないです。この20の過去世、振り返っても、やっぱり仏が私の最高の導きでした。西洋では一つの命しかないからね。私にとっては全く違う人生、そのカルマ(業)の体験でね、ダーッと動いて、だんだんだんだん進化していきます。だから、今ここで皆さんに「心から本当に真理を知りたい」という心があれば、必ずや神仏が応援してくれます。やっぱり仏と神々は一体になっています。

そのとき、大ピラミッドが動いて、パウオンというのは正式な名前は「五鉈杵」なのです。ヴァジュラ（金剛杵）というお寺なのです。パウオンというのは「キッチン」という意味で、「最高の力を持つところ」ということで、ボロブドゥールのピラミッドでもなく、メンドウの胎蔵界でもなく、そのパウオンの小さいクティが最高の力を受けると。大涅槃界が開いたときに、すごい天界の方々がダーと降りてきたように私は感じましたね。待っていたわけなのです、この時空。だから昨日もミャンマーの話で皆さんに758歳のウ・パンディッタ比丘、その次の561歳、204歳の方々は1年に1人、全部で4回しか現れない。いつ現れるかわからないのだけれども、満月の日の行、バガンで終わって、そしてミンブというところに行っ

たときに、87歳のセクレタリーが「あなたのお出でくださるのをお待ちしております」と。「今晚4人すべて現れます」と。この方々はホワイトカシナ（白遍）の神通を使って、空中から姿を表して空中に消えていきますね。それが幻ではないのは、私ちゃんと触ったからね、頭で！（笑）それはカシナ（十遍）の行法といえ、空中を飛べることもできるわけなのですが、実際にやるかやらないかは、どこまでアビンニャー（神通）をやればいいのか、という行法がもう一つもらった緑の本に書いてあるのだけれど、私はダンマの方に興味があるから、あんまり神通は興味がないですね、そっちの方は。そういう方法もあります、どういふふうにそれが開発できるか。それは第四禅定が必要です。第四・第八禅定の使い方があって、どんどん進化すれば、そういうふうになるのでしょうか。ある行者が川を渡るのに一生懸命、水の上を歩こうとしていたのだけれど、お釈迦様が「そこにある船を使いなさい！それで渡りなさい！」ということで（笑）、ダンマの方に興味があります。

そういうふうでインドネシアの旅はすごいもので、一番最後に分かったことは、プラオサンという側に密教のお寺がありまして、それが金剛界・胎蔵界二つの寺院があるわけです。胎蔵界は比丘のお寺。金剛界は比丘尼、女性なのです。そういうふうになって、同じ四角い建物になって、その上にまた寺院がピラミッド形式、インバートルピラミッド。そこで泊まり込みで修行するのでしょうか。そのときに、ちょうど同じサイズでそれが中国に渡ってきたのかな？ それでまたこれも多分、中国の道教で言う陰陽という女性・男性、それがここから発生したかも分からないと思いましたね。タオ（道）本来の行法では、そこまでいったかどうか？なぜかといったら、私がパオで発見したことは三十二身分法という瞑想法があります。それ第四禅定に入ったら必ずやらせます。そのとき、体を調べたときに、チャクラの動き方がはっきり分かりましたね。

だから、お釈迦様はそのときに三十二身分を一生懸命やらせたいです。体をしっかり観るといふか、非常にこの体は宇宙の全機密があるわけなのです。私たちが外を見るでしょ。宇宙の大海ができるでしょ？ 心の中を観たらね、心の中の宇宙が全く一緒なのです。私たちは宇宙的なスケールから観たら、この紙よりも薄い空間にしか生きていないわけです。それが、お釈迦様がスリランカで発見したお経にちゃんと書いてあるわけです。無限の過去、無限の未来、私たちの生きている時空というのは、私の計算のしたところによれば、丁度、ナノの下のピコの下のアト単位になってしまうのですね。時空の空間がナノよりも下の時空と言ったほうがいいですね。こういうふうに分けたわけ、経典からですよ。物理学ではない。経典を解析したときに、こういう単位が出てくる。時間単位とか空間単位とか、ダーッと出てくる。だから、仏教というのはお経で中国から渡ってきて難解なんですけれど、パリー語から見たら、実に科学的な情報がいっぱいあるわけなのです。

特に今回、驚きの発見したのは「丸」と「三角」、これは数学的にもいまだに分からない秘密なのです。正三角形が「丸」の中にピッタリと止まる。その時空はいまだに誰も数学的に解析できない。だから、私たちは宗教と言え、瞑想してアビンニャー使って何かいろんな不可思議と思っているけれど、針の先よりも正確な時空に私たちはおって、一寸の間違いない時空の旅をしているみたいです。だから、その中で「いかに涅槃の世界に入るか」ということが最も大切なことであり、それを助けるために、こういうタントラヤーナ（密教）

の行法もあるわけです。だから、私としては「どういう行法を使ってもいいから、涅槃の世界に入ってほしい」と思うわけです。

その方法として、一般の方は難しいから結局、阿弥陀仏の方法。不動明王様は阿弥陀の化身ともいわれる。不動明王の化身が阿弥陀だともいわれる。火の鳥が回っているわけですね。西の阿弥陀の周りも。必ず火の鳥が出る。そのナーガルジュナ様が、龍樹菩薩が、この世を去るときに、600年の時空を終えるときに、どこ行ったかと言ったら、西方の阿弥陀の国に往ったという。というふうに説かれています。

だから、仏教というのは壮大な大ロマンの世界で、1200年の時空を通過して、ピタッ！ピタッ！と合って、ボロボドゥールで護摩行やって、そこでピラミッド・マシーンが動いたということなのです。それが私の観た体験で、その後カナダから私の生徒が二人来て、坐ったわけなのです。そうしたら、インディアンと非常に関係がある人が、真ん中に火が燃えているのが観えた。自分はなんだか知らないけれども、小さくなって猫ちゃんみたいに、壁のくぼみ飾りの中に入って観ていたと（笑）。そして、その火から金粉がフワッと上がっていた。つまり「大涅槃界が発生した」ということ。だって仏教の仏も分からない。ただ体験だけ教えているものだから、仏教用語で言ったって通じないわけなのです。「ああそうかそうか、まあもっと仏教勉強したら教えてあげます」ということで。それで、私がそこで頭をよく付けて、非常に気持ちがいいのです、ズーッと付けたら。なぜかと言ったら、石が水のように観えて、すーと奥が観えているわけ。それをズーッと観ていると、とっても気持ちがいいわけ。という不思議な体験ですね。丁度「禅定に入って非常に気持ちがいいな！」というより、もっと気持ちがいい、体がね。まあ一応、今日はインドネシアの旅のお話、これくらいにして、休憩して、あと皆でお経を読んで、瞑想して、その後、質問があれば質問を受けようと思います。



不動明王の護摩焚き（2012年12月28日）

水源禪師法話集 20

(2013年2月17日 東京法話会)

2014年10月10日 発行

編集兼発行 一乗会